

印西市地域公共交通計画の評価等結果（令和3年4月～令和4年3月）

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1	公共交通に関して満足している人の割合： 15.1%（令和2年度）→ 26%（令和7年度）	—	—	—	—	2年に一度実施する市民満足度調査結果による
2	公共交通（バス）に関して満足している人の割合： 40%（令和元年度）→50% （令和7年度）	—	—	—	—	次期計画策定時に実施予定の基礎調査結果による
3	市内駅の1日あたりの乗降客数：58,317人（令和元年度）→64,200人（令和7年度）	公共交通による市内各地域からの移動利便性の向上	鉄道事業者の有する乗降データを用いて計測	令和3年度 ・市内駅乗降客数 46,526人/日	目標値達成へ向け、乗降客数増を図る。	
4	バス利用者数： ふれあいバス利用者数 245,944人（令和元年度） →251,000人（令和7年度）、 路線バス（補助路線） 232,884人（令和元年度） →256,200人（令和7年度）	公共交通による市内各地域からの移動利便性の向上	バス事業者の有する乗降データを用いて計測	令和3年度 ・ふれあいバス 237,528人 ・路線バス（補助路線） 207,082人	目標値達成へ向け、乗降客数増を図る。	
5	交通不便地域数： 10地域（令和2年度）→ 5地域（令和7年度）	公共交通による市内各地域からの移動利便性の向上	事業執行状況による	目標達成に向け情報収集	検討を継続	
6	重複区間の路線延長： 24.7km（令和2年度）→ 一部を除き概ね解消（令和7年度）	バス路線の適正配置、運賃格差の是正	事業執行状況による	目標達成に向け情報収集	検討を継続	
7	コミュニティバス（ふれあいバス）の運賃 100円（令和2年度）→170 ～200円（令和7年度）	バス路線の適正配置、運賃格差の是正	事業執行状況による	目標達成に向け情報収集	検討を継続	
8	バス1便当たり利用者数：前 （令和元年度）→後（令和7年度） コミュニティバス（ふれあいバス） 12.0人/便→13.0人/便、 路線バス（補助あり） 六合路線5.0人/便→5.5人/便、 宗像路線2.4人/便→2.6人/便、 印旛学園線4.1人/便→4.5人/便、 小林線7.4人/便→8.0人/便	補助対象路線の見直し・改善	バス事業者の有する乗降データを用いて計測	令和4年3月現在 ・コミュニティバス（ふれあいバス） 11.6人/便 ・六合路線 4.2人/便 ・宗像路線 2.0人/便 ・印旛学園線 3.4人/便 ・小林線 6.3人/便	目標値達成へ向け、乗降客数増を図る。	
9	バスの収支率：前（令和元年度） →後（令和7年度） コミュニティバス（ふれあいバス） 18.0%→19.8%、 路線バス（補助あり） 六合路線52.5%→57.7%、 宗像路線30.3%→33.3%、 印旛学園線47.7%→52.4%、 小林線60.7%→66.7%	補助対象路線の見直し・改善	バス事業者の有する乗降データを用いて計測	・コミュニティバス（ふれあいバス） 19.8% ・六合路線 47.0% ・宗像路線 21.0% ・印旛学園線 32.9% ・小林線 44.3%	目標値達成へ向け、乗降客数増を図る。	
10	バス停の歩車分離（歩道・縁石・ガードレール等の設置）の整備率：77.4%（令和元年度） →87.0%（令和7年度）	バス等の利用環境・走行環境の改善	事業執行状況による	目標達成に向け情報収集	情報収集を継続	
11	バス停設備（上屋、ベンチ）の更新に関する協議の実績：0件（令和2年度） →協議の実施（令和7年度）	バス等の利用環境・走行環境の改善	令和3年度一般会計決算より	令和3年度 3箇所新たにベンチを協議・設置（JR小林駅、本埜支所、船穂中学校前）	令和4年度中に、新たに2箇所協議・設置予定	
12	バス路線が通過する渋滞ポイントの箇所数： 11箇所（令和2年度）→8箇所 （令和7年度）	バス等の利用環境・走行環境の改善	事業執行状況による	目標達成に向け情報収集	情報収集を継続	
13	駅前にバス案内板を設置している駅数：0件（令和元年度） →3箇所（令和7年度）	利用促進策の展開	事業執行状況による	目標達成に向け情報収集	情報収集を継続	
14	公共交通総合マップの配布箇所数： 28箇所（令和元年度）→40箇所 （令和7年度）	利用促進策の展開	事業執行状況による	令和4年度実施に向けた調査業務、配布箇所は前年同様	今年度の調査を基に、令和4年度に作成、配布予定	
15	利用促進の取組実績件数（広報、HP、説明会など）： 7件（令和2年度）→15件 （令和7年度）	利用促進策の展開	事業執行状況による	4件実施 ・市HPでの鉄道関連ページの刷新 ・市広報の臨時ライナー連続掲載 ・市ツイッターのイベント周知活用 ・千葉ニュータウン中央駅周辺でのイルミネーションイベント「イルミライ★INZAI」の車内広告を北総線で実施。	公共交通の利用者を増やしていくための各種施策を継続的に実施	
16	イベント等と連携件数： 0件（令和元年度）→3件 （令和7年度）	利用促進策の展開	事業執行状況による	・JR成田線については、開通120年に合わせ、成田線活性化推進協議会で、様々な企画を実施。	北総線の令和4年10月からの値下げに向け、沿線の活性化を北総線沿線地域活性化協議会及び市でも取り組む。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。